

フレッシュアップ コミュニケーション

東京学芸大学附属竹早中学校同窓会

〒112-0002 東京都文京区小石川 4-2-1 東京学芸大学附属竹早中学校内

同窓会会長 古谷顯史郎

'20.8

ご挨拶 会員の皆様へ



同窓会会長 古谷 顯史郎

会員の皆様には、常日頃、同窓会活動にご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

またこの度の感染症拡大により、その影響をお受けになられている会員ならびに関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症が、パンデミックとなり世界に蔓延しております。この事態は、100年前の通称スペイン風邪以来の大流行です。この感染症は、1918年から1920年にかけて第一次世界大戦の死者数の4倍、約4000万人が死亡しました。日本でも1918年から1919年にかけて数回の流行があり、人口の1%弱、約45万人が死亡した様です。その当ても政府は、手洗い、うがい、人混みに出ない事を国民に求め、マスクの着用、患者の隔離、学校の休校が行われたと聞いております。この100年で科学技術の進歩は目を見張るものがあります。現在でもほぼ100年前と同じく、個人個人が身を守り、感染を広げない努力をする事以外に感染症の拡大を防げない様です。ここ暫くは、ワクチン、治療薬の出現を首を長くして待つという状態に置かれ息苦しい生活が続くと思われまます。

昨年は、例年通り入学式、学校説明会、運動会、文研に出席させて頂きました。生徒諸君の活動は、多様性の中に自由と主体性を感じられ母校の伝統がまた1年繋がれたとの思いをもち安心しておりました。しかし、今年に入り感染症の拡大に伴い、政府からの休校要請を受け、卒業式は卒業生と保護者のみの出席という事になりました。そして、入学式も卒業式同様規模を縮小して行

われました。その間、同窓会としては、学校と緊密に連絡を取らせて頂き、相談の上、同窓会総会は、中止する事と致しました。総会担当年次の42期の委員の皆様には、準備が相当進んでいた所でご迷惑をお掛け致しました。お詫び申し上げます。

本年の同窓会の活動は、総会を中止致しましたが、6月20日に学校からの要請に合わせ参加人員を縮小して同総会誌発行の各部署実務担当を中心に常務理事会を開催しました。昨年度の決算、今年度の予算案、改選期の常務理事人事の件、同総会誌「フレッシュアップコミュニケーション」の記事内容等の確認し、決算、予算案、人事を承認致しました。これをもって今年度の予算を執行させて頂きます。

また、来年の総会、懇親会の開催は、42期、43期合同でお願いする事に致しました。現状、学校の行事予定が未定の為、様子を見ながら秋口に事業部担当理事の野島さんを窓口準備委員会を発足させたいと思います。委員になられる皆様には、お手数をお掛けしますが、宜しくお願い致します。今後も、学校と情報交換を密に行い状況が許す限り常務理事会開催を検討して参ります。

話は変わりますが、母校の現状は、附属学校の生き残りをかけ、基盤である幼小中連携教育、研究を深耕しその上に新しい技術を使った「未来の学校構想」という、生徒の主体性をより深めるプロジェクトの話もある様です。また、今後期待できる独自の研究として「多様性の教育」も始まっております。一昨年から始まった教育支援の「特別連絡進学」に付いては、今年度3学年の生徒が揃い今後3年間の研究成果に期待したい所です。

同窓会では、ポスト75周年を意識し、会の活性化を図る為にも常務理事の人事に付いて注力して参りますので会員の皆様のご協力を賜りたいと思えます。

また、記念事業寄付に付きましては、昨年同窓会会員から寄付金総額の約1割にあたる65万円の寄付を頂きました。心よりお礼申し上げます。

結びになりますが、会員の皆様には、今後とも、さらなるご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

新型コロナウイルス 影響下での生徒の学び

校長 藤本光一郎



同窓会の皆様には、日頃より本校へのご支援やご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響で3月初めから5月末で3か月間休校が続きました。先が見通せない中、手探りで生徒たちの学びを進める取り組みを始めました。紙ベースの課題をはじめは郵送しましたが、5月からホームページにアップし、生活リズムや学習習慣のために時間割も作るようにしました。また、電話やZoomによって生徒と担任が直接接する機会も作りました。オンライン授業については、情報委員会を中心に検討し、「ロイノート」という授業支援アプリとZoomを

併用するにしました。準備期間もない中、初めてのオンライン授業に向けて教員が互いに学びあう姿からは、教えることへの誇りや思いを感じました。導入にあたって課題となったのは家庭のネット環境です。2回にわたって端末の種類やWiFi環境について調査し、5

月中旬までに本校にあるiPad 50台とWiFiルーター15台を必要な家庭に貸与し、すべての家庭でオンライン授業の環境を整えました。またネット上のマナーについても丁寧に指導しました。学年開始の時期に生徒が躓いたり取り残されたという気持ちを持つことのないように、段階を踏みながら5月25日から一斉にオンライン授業が始まりました。同時双方型のオンライン授業は生徒や家庭にとっても負担があるので、一日上限2コマとし、フォローアップの時間も確保しました。

6月1日に学校は再開しましたが、登校日以外はオンライン授業です。密を避けるためにクラスを半分に分けての対面授業とオンライン授業の双方を行うために、教員は大忙しです。6月30日より36人学級に戻し、7月6日から3学年一斉登校と

しました。いろいろな制限がある中、生徒はよく状況を把握して行動しています。コロナ対策をしながらも竹中本来の主体性や自主性を伸ばす学びが実現できるよう工夫を重ねたいと考えています。

「新しい生活」の中の学舎

副校長 森 頸子



勤し、教室の設営や体調不良の生徒の動線を分けるゾーニングの準備を行いました。未曾有の事態ではありますが、三密を避ける環境作りには、震災、火災事故に対応した経験を持つ教員が多くいたからかも知れません。しかし、六月いっぱい行つた学年別分散時差登校は、対面で行う30分1コマで一日8時間授業と、生徒在宅での遠隔授業が日替わりで行われることとなり、教材の作成準備と教員側のICT環境の整備が追いつかない中での同時進行はかなりの負荷を生徒教員双方にもたしました。学習の定着に不安を抱える中で、七月から全校一斉時差登校(短縮45分授業)に移行しました。

「机と椅子を体育館と武道場へ運ぼう。」「学年ロビーに十八組並べて授業をしよう。」特別教室に力を入れたづくりの本校校舎において、学級の教室はもともとかなり手狭です。から、フィジカルディスタンスをとりながらの「教室」の確保は、容易ではありません。六月からの学校再開に向けて五月末に、教員全員が出

「生徒や教職員の安全を守ること」と「学校を平常通りに運営すること」は両立させるのが困難です。すでに、校外学習は中止され、生徒下校後は教員総出での消毒が必須となっています。生徒も登校時にサーモグラフィのチェックを受け、手指消毒。マスク着用のため、熱中症対策で私服も選択できます。昼食は、卓上パーテーションを立てて黙って前を向いて自席で食べ、その後は学年輪番制

で体育館下校庭、メディアセンターへ行くことができます。これから先の学校行事も部活も何一つ例年通りではなくなります。友達とくっつけないし、大声で騒げない毎日ですが、それでも学校にいるときの子どもたちは幸せそうな笑顔を見せてくれます。「新しい生活」を送る中で、笑顔がたくさん増えるように工夫していきたいと思います。一層のご支援ご協力の程、お願い申し上げます。

新任・退任の先生挨拶

● 退任挨拶

丹 陽子



前校長の丹陽子でございます。同窓会の皆様には在職中大変お世話になりました。誠にありがとうございました。例年であれば、校外学習も終わり、一学期も終盤を迎えている

頃ですが、コロナ禍の中、これまでに経験の無い学校生活を竹中生も先生方も過ごしていらっしゃることであろうと穏やかならぬ思いです。自宅近くの公園にある泰山木の白い花を見上げながら、一日も早く皆様様の平穏な日々が戻ることを祈念しております。

● 新任挨拶

飯田 遼



今年度より竹早中学校に勤務することとなりました、飯田遼と申します。このような形で東京学芸大学附属校での教員生活がスタートするのは全く予測しておりませんでした。が、持ち前の明るさをいかして、自分のできることに精一杯取り組み、生徒たちの学校生活が充実したものになるよう努力していきたいです。先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭

撻のほどよろしくお願い申し上げます。

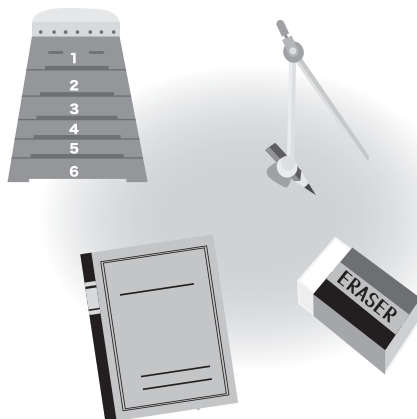
齋藤貴博



今年度より赴任しました、保健体育科の齋藤貴博と申します。

日頃より、保護者の皆様をはじめ、同窓会の皆様には多くのお力添えをいただき、感謝申し上げます。こうした状況において、協働力や、繋ぎの重要性を再認識するとともに、スポーツという遊びが持つ可能性や、健康管理を中心とした環境整備の必要性を生徒たちと考えているところです。

竹早中学校という学びの場が、未来に拓かれ、可能性に満ちた場となるように精一杯努めていきたいと思っています。



42期生の部屋

懐かしい時

学年主任 三年D組担任 山村喬子



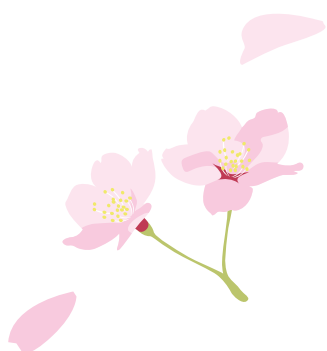
久しぶりに卒業アルバムを開きました。ウワーツ若い！輝いてる！三十年も前の写真の中で、生き生きと美しい！

四十二期生の入学式は、青空の下、満開の桜、そして足元には雪が積もっていました。その日から三年間、担任として悩んだこともありましたが、結局「楽しかった！」の一言です。他の先生方や保護者の方々の支えのおかげで、本当に沢山の温かさのおかげで、素晴らしい三年間が過ごせたと思っています。

私は、竹早中をリタイヤしてから、大泉小学校や竹早小学校で音楽の授業をさせていただきました。（小学校の一年生はまるで宇宙人のようでした）それから、外国人の子ども達に日本語を教える仕事（ボランティアですが）を始めて今日に

至っています。（今ではコロナのせいで休業中）

竹早中以外の場所で様々な経験をしながら、あらためて竹中生のエネルギーや真っ直ぐさを思いおこし、感謝するばかりです。



校庭のイチヨウ

三年A組担任 西原口伸一



旧校舎の校庭の隅に5本のイチヨウの木が植えてありました。3階建ての校舎よりも高くそびえ立ち、長い間竹早中の生徒を見守ってくれました。堂々とした立派な木でした。

ある年の紅葉の頃、私はこのイチヨウの葉の鮮やかな黄色の美しさに、そしてたくさんの黄色い葉で着飾ったイチヨウの姿の美しさに感動したことがあります。「なんて美しいんだろう」と思ったのは私だけではなかったようです。その年の銀杏もたわなに実りました。「こんなにたくさん実ったのは初めてよ」と福岡先生。

翌年、校舎改築のため旧校舎は取り壊され、5本のイチヨウの木も伐採されました。イチヨウはあの時、紅葉と銀杏の形で私たち人間に何かをアピールしたのだと思います。

大らかさと主体性

三年B組担任 荒井正剛



皆さん、お元気ですか？
入学式は雪でした。覚えていませんか？

教育目標の一つ目は覚えていますか？

「自ら求め考え表現し実践できる生徒」です。主体性、思考力、表現力、そして実践力と、今、社会で求められている力です。号令はなく、先生が教室に来たら、自ら立ち上がる。全国に広めたいです。

そして、竹早の大らかさ。失敗したらそこから学ぼう、素晴らしいことです。山村先生はその先端を行ってましたね。最初の学年だよりの自己紹介で、小泉今日子さんの写真を貼り付けたこと、思い出されます。先生の大らかさによくほっとさせられました。男女関係なく、みな仲良かったよね。

皆さんは今、社会の中核として活躍されていることでしょう。SDGsをご存知だと思います。持続的な開発のため、環境保全、経済発展、社会的公平性のバランスをとることが重要です。私は生活スタイルにも持続性が大切だと思います。その基本は健康、家族を大切にすること、そして、大らかさ・寛容さでしょうね。皆さんとの再会を心待ちしています。

あれから三十年…

竹早中学校主幹教諭
三年C組担任
加藤英明



竹早中に赴任して二年目、人生、初めての担任。初めての入学式は、何と大雪であった。ということ、四十二期生との出会いは、私にとつて生涯忘れられない出来事になった。

また、今は無き旧校舎（うぐいす張りの廊下、一枚板の階段、雨漏りのする天井）での生活は、今でも目の裏に焼き付いている。初めて担任した二年B組の生徒達。文研ではまさかの「加藤先生について」をテーマに調査研究し、実家の母親にインタビューにまで来てくれた。（母もびっくり！）

そして、中学三年時。男子バスケット部の生徒達が全国大会に出場し、三位に入賞した。「スポーツは、頭とメンタルが八割、技能や体力は二割。附属の生徒の特性を生かしてよく頑張ってくれた」私の恩師、故関四郎先生（当時の学長）からいただいた讃辞である。

竹早中学校の思い出

二年B組担任
小関高明



竹早中学には理科の教員として、1978年から1990年まで勤務しました。天文部の生徒たちと広い理科準備室にプラネタリウムを作つて文研で投影したり、夏には長野県の小谷村や北軽井沢などで合宿を行いました。徹夜で観測ですが、昼間は昼寝をした後で化石採集に行ったり、上級生が下級生の宿題などよくめんどうをみてくれました。帰りの列車まで、ペンションのサンダルを履いてきた生徒がいて爆笑したのも楽しい思い出です。現在でも連絡を取り合っている人もいて、2017年には卒業生とご家族15人ほどがアメリカのワイオミング州に集まり、日食観察や観光を楽しみました。竹早中退職後は私立高校勤務を経て、姫路市で科学館と公開天文台の建設に関わり、定年まで勤務しました。定年退職後「関西モバイルプラネタリウム」を起業し、現在は全国各地で移動プラネタリウムと天体観望会を実施しています。竹早中学校でもぜひ実施したいと、卒業生と話し合っています。

42期幹事より

昨年7月竹早の同窓会に出席した際に、41期先輩方による企画である講演会とワークショップ、そして講演内容と、竹早の校歌が印字されたブックカバーのお土産に、大変感動しました。さて、次は私達42期：どうしよう。

同級生達と模索する中、先輩・後輩として同じ竹早の時間を共有し、現在ジェーン・スーさんとして、著作・ラジオ（TBSラジオ月金 11:00〜13:00『ジェーン・スー生活は踊る』）でご活躍されているスー先輩にご講演をお願いしたい！との思いが皆で募り、ドキドキしながらアタックしました。講演会他、大変ご多忙にもかかわらずスー先輩からOKとご快諾頂き、ヤッター！と喜んでいたので、このコロナ…。

スー先輩の著作は「貴様いつまで女子でいるつもりだ問題」「生きるとか死ぬとか父親とか」「これでいいのだ」他、まさに40代の我々が、なんとなく感じながらも言語化されていなかった思いの諸々を、掬いとつて言葉にし、時には優しく包み込み、時にはバツサリ一刀両断！しています。文章からも随所感じられるように、そんなスー先輩の根っこには竹早があり、スー先輩の視点からあの

頃の竹早を語って頂き、そして今その竹早を経て大人（中年）になった同窓生たちへのメッセージ、をお話し頂く予定でした。

42期幹事としては、来年こそは是非スー先輩にご講演いただきたく強く思っていますが、日程はじめ全ての予定がたたない昨今ですので、確定したものとしてお伝えできなくて残念です。

今回同窓会にむけて動いている42期幹事ですが、その多くは、卒業時に総務委員だったという理由で同窓会名簿に幹事として登録されていたというメンバーです。昨年「名簿に幹事として登録されているよ」と知らされ、（すっかり忘れきっていたため）驚いていた者が大半ですが、打ち合わせに新幹線で駆け付け、コロナ前は仕事や家事の合間にカフェで集まり相談し、その後はメール、ラインを中心に、力をあわせて取り組んでいます。また、「42期が最初に竹早で教えた生徒たち」と仰つて気にかけて下さる森副校長先生にも色々相談にのつて頂き大変有難く思っております。

次期総会を盛り上げていくために、皆様のご協力が必要です。開催は来年になってしましますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

（文責 谷内（旧姓高橋）真理子）

令和元年度 同窓会総会報告

令和元年7月6日(土) 竹小ランチルームにて同窓会総会および懇親会が開催されました。総会は滞りなく議事が進行され、創立75周年記念に向けての事業計画が説明されました。2期から69期まで106名の同窓生、幹事学年担任の新海宣彦先生、林正太先生、岩瀬三千雄先生、山田一美先生をはじめ、現職の先生方を含む多くの先生方にもご出席いただきました。懇親会では、藤本校長、岩瀬先生、森副校長からご



挨拶をいただき、林先生の乾杯のご挨拶で賑やかに始まりました。

懇親会のメインイベントは、同期の高垣さんが代表を務めるペーパーミラクルズの活動紹介と参加者全員でのペーパーミラクルズのワークショッップでした。高垣さんは、パキスタンの女性の自立支援活動としてペーパーミラクルズを立ち上げるに至った経緯と、ペーパーミラクルズと呼ばれる古紙をリサイクルして作るジュエリーの製作で、パキスタンの女性が少しずつ自信と尊厳を取り戻していった様子を、写真や動画を交えながら軽快な口調で紹介し、皆、彼女の話に引き込まれていきました。その後、参加者一人一人がペーパーミラクルズに挑戦しましたが、これがなかなか細かい作業で、皆さん悪戦苦闘。学年担任の先生方と同期の座るテーブルでは、軽口をたたきながら笑ったり器用な人のペーパーミラクルズに感心したりと、その様子はまるで中2の時の校外学習で草鞋を作った時の光景そのもので、当時を懐かしく思い出す場面もありました。講演の最後はパキスタンの衣装を身につけた同期男女4名によるファッションショーで盛り上がり41期らしい締めくくりとなりました。(なお、当日、ペーパーミラクルズの商品販売の売り上げから金壺万円を竹早中学校教育後援会を通じて寄付いたしました。)

そして、42期の皆さんの紹介、新海先生のご挨拶、先輩方のご長寿祝い、校歌斉唱、記念撮影へと進み、同窓会総会および懇親会は盛会のうちに終了いたしました。当日、夜の同期会には学年担任の佐々木棟

明先生にも駆けつけてくださいました。幹事を担当するにあたって、細やかなフォローをしてくださった先輩方、随分と早い時期から何かと協力いただいた41期学年担任の先生方、そしてご多忙中にもかかわらず当日参加してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。(41期 玉山)

平成31年度竹早中学校 同窓会活動報告

4月10日 入学式出席(会長・副会長出席
お祝い1万円)

4月20日 第1回常務理事会 5階会議室

6月29日 第2回常務理事会及び懇親会
有楽町 小洞天

7月6日 同窓会総会・ランチルーム 小

9月7日 第3回常務理事会

9月28日 運動会出席(会長・副会長出席
お祝い1万円)

11月9日 3年保護者説明会 会長出席

1月25日 第4回常務理事会及び新年会
洋食麦屋日本橋高島屋店

※卒業記念品贈呈式 3月12日 (村上副
会長 白江出席)

※卒業式 3月13日(会長・副会長出席)
の予定をコロナウイルス流行の影響のため出席取りやめ、卒業記念品マグカップ・名簿・お祝い金1万円を会長より学校へ

創立70周年記念誌の販売

懐かしい母校の活動や同窓生の座談会を記載した、創立70周年記念誌を販売中です。振込用紙からお申し込み下さい。

記念誌販売価格4000円

(令和元年度維持会費+送料+記念誌代)

令和元年度

同窓会常務理事

会長	古谷顕史郎	13
副会長	松岡 隆司	14
顧問	村上 一路	13
	二瓶 好正	7
	田中 元次	2竹
	三嶋 明	13
監事	高柳 良夫	3竹
	高島 正子	7
総務部	白江 千治	26
	白石 英行	31
	神沼 厚史	40
事業部	田中 充	29
	高島 裕	36
	野島 雅	41
広報部	田上 睦美	33
	関根 青磁	38
名簿部	安井 肇	19
	根本 律子	31
	関根あすか	36
	正野 敬子	19
	永井真知子	19
会計部	石黒由香里	26

同窓会部活動援助金について

同窓会部活動援助金につきましては、今年度は次のような備品に使わせていただきました。

- ナカトミ ビッグファン（グラウンド用）（サッカー部・陸上部）
- ナカトミ 工場扇風機（武道館用・体育館用）（バスケットボール部・バレーボール部・ダンス部）
- ボール（新規格品）（バレーボール部）
- ティンパニー（23インチ・26インチ・29インチ）（吹奏楽部）
- 卓球台（卓球部）

今年度も運動部は各大会で活躍し、都大に出場する部もありました。文化部につきましても、個性豊かな活動が先生方によって支えられています。例年、御支援を賜り、感謝申し上げます。

今後とも引き続き、部活動に対する応援、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

名簿部より

同窓会名簿販売について

同窓生の交流を応援するツールとして、「2017年版同窓会名簿」を発行しています。振込用紙よりお申込み下さい。

なお、名簿にはナンバリングが施され、同窓会でも管理していますので、廃棄など十分ご注意ください。

同窓会名簿販売価格 5000円
（令和元年度維持会費＋送料＋名簿代）

名簿デジタルデータ更新について

- ①「竹早中学校同窓会個人情報に関するガイドライン」及び「竹早中学校同窓会個人情報保護基本方針」を遵守し、管理致します。
 - ②同窓会誌「フレッシュアップ」発行時の同窓会返信葉書にて、毎年調査を行い、変更事項について更新致します。
 - ③随時、郵送又はメールにてデータ提供をいただいた場合、更新致します。
 - ・自分の住所等の変更があった時
 - ・2017年版名簿に記載誤りがある時
 - ・2017年版名簿に友人の空欄（消息不明）をお知らせいただける時
- ※なお、ご本人が公表拒否を希望されている情報は、同窓会のみ管理となります。
- 連絡先：〒112-0002
東京都小石川4-2-1
東京学芸大学附属竹早中学校
同窓会総務部 白石 英行 宛
E-MAIL bunkyo@mail.ne.jp
- ④デジタルデータ更新は年2回（3月・9月）行います。
 - ⑤同期会開催の場合、各年次委員に限定しデータ提供を行います。

2019年度 会計報告

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
I 前年度繰越	8,836,579	III 本年度支出	3,192,459
内訳		内訳	
定期預金	3,000,000	同窓会会報発行費(1)	1,386,656
普通預金	1,969,639	総会・懇親会開催費	546,189
郵便貯金	3,752,138	常務理事会費	18,248
小口現金	114,802	総務費	96,434
II 本年度収入	3,485,274	文書事務費	4,634
内訳		郵便連絡費	157,715
新入会員会費	1,600,000	慶弔費	75,154
同窓会活動支援寄付金	564,000	卒業記念品代	115,005
維持会費	876,000	クラブ活動援助金	600,000
総会・懇親会会費	196,000	名簿入力・追録費	83,600
預金利息	274	ホームページ作成・維持費	108,824
名簿売上	161,000		
70周年記念誌売上	88,000		
合計	12,321,853	差引残高	9,129,394
		IV 次年度繰越	9,129,394
		内訳	
		定期預金	3,000,000
		普通預金	1,701,647
		郵便貯金	4,363,878
		小口現金	63,869
		合計	12,321,853

注：(1)送料を含む

以上相違なく報告いたします。
2020年3月31日
東京学芸大学附属 竹早中学校 同窓会 会計 正野 敬子 (印)
永井 真知子 (印)
石見 由香里 (印)

監査報告
2019年4月1日より2020年3月31日までの本会の収支決算、繰越金、明細について、各種の伝票類、領収書、預金通帳、また現金等を厳正に監査しました結果、本会の会計が適正に処理され、別記会計報告のとおりであることを認めます。
2020年4月1日
東京学芸大学附属 竹早中学校 同窓会 会計監査 高柳 良夫 (印)

2020年度 予算案 (自2020年4月1日 至2021年4月31日)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
I 前年度繰越	9,129,394	III 本年度支出	3,170,000
【内 訳】		【内 訳】	
定期預金	3,000,000	同窓会会報発行費(1)	1,500,000
普通預金	1,701,647	常務理事会費	50,000
郵便貯金	4,363,878	総務費	120,000
小口現金	63,869	文書事務費	70,000
II 本年度収入	2,850,200	郵便連絡費	190,000
【内 訳】		慶弔費	90,000
新入会員会費	1,500,000	卒業記念品代	140,000
同窓会活動支援寄付金	500,000	クラブ活動援助金	600,000
維持会費	800,000	技能強化支援金	100,000
預金利息	200	名簿入力・追録費	170,000
名簿売上	10,000	ホームページ作成・維持費	120,000
70周年記念誌売上	40,000	2021年度総会・懇親会開催準備金	20,000
		差引残高	8,809,594
		IV 次年度繰越	8,809,594
		【内 訳】	
		定期預金	3,000,000
		普通預金	2,500,000
		郵便貯金	3,000,000
		小口現金	309,594
合計	11,979,594	合計	11,979,594

注：(1) 送料を含む

教育後援会

「創竹会」からのお願い

創竹会副会長
神沼 厚史

新型コロナウイルス感染症（COV-19）に罹患された皆さま、関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。この様な状況下、同窓会会員の皆様には平素より竹早中学校教育後援会「創竹会」の活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

教育後援会・「創竹会」は教育活動に必要な資金を任意の拠出金にて賄うために設立されました。国からの「運営交付金」が減額され、大学から附属学校へ給付される予算「附属学校教育研究費」も減少され、不足分を補うため皆様からのご支援のご協力をお願いしております。また、そのような現状下、竹早中学校も新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令され生徒等に十分な教育が出来るよう対応する為、更なる緊急費用が必要となっています。

教育後援会・「創竹会」では一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、その後の早期に平穏な学校活動の日常を取り戻すために支援したいと思っております。同窓会の皆様には、以上のような実情をご理解いただくと共に、「特別寄

付」へのご高配を賜り、更なるご支援をお願い申し上げます。

本年度開始の「特別寄付」制度概要

- 1 目的 東京学芸大学附属竹早中学校の教育振興・充実等のため
- 2 募集対象 全校生徒保護者、同窓生、賛助会員、一般個人・法人
- 3 受付期間 通年の募集

* 大学からの「寄付領収書」発行手続きに時間を要するため、2020年（1月～12月）確定申告に必要な「寄付領収書」の発行を希望される場合は、9月30日まで振込をお願いします。

- 4 受付金額 1口10,000円（一口以上、何口でも結構です）

- 5 支払方法 ゆうちょ銀行振込

* 同封のゆうちょ振込取扱票「竹早中学校教育後援会（特別寄付用）」をご使用下さい。振込手数料は誠に勝手ながら各自ご負担下さい。

* 大学からの領収書が届くまで、振込受領書を大切に保管下さい。

さてこの機会に、教育後援会・「創竹会」の役割について説明させて頂きます。教育後援会は平成12年に当時の文部省からの要請を受け、教育活動に必要な資金を任意の拠出金にて賄うために、多くの国立大学附属学校園で設立されました。平成16年に国立大学が独立法人化されて以降、国からの「運営交付金」は年々減額され、大学から附属学校へ給付される

予算「附属学校教育研究費」も減少の一途をたどっております。具体額で申し上げますと、竹早中学への「附属学校教育費」は、平成15年度に約930万円の給付額が、令和2年度は約280万円となり、当初から7割の減となりました。つまり生徒一人当たりへの支給額が、1万円にも満たないのが現状です。

このような現状を踏まえ、教育後援会では皆様からの寄付金を、大学および竹早中学校に支出することにより、就学環境の維持改善を行っております。この創竹会からの寄附金支出によって空調設備の更新・保守、教室校舎の修繕、教科の備品・消耗品、図書購入など様々な施策の支援を実施して参りました。公立中学校では税金で賄われているものが、東京学芸大学の附属学校では支給されないというのが現状です。加えて2017年実施した校内LAN更新整備や、現在進行中の体育館の改修を中心とした運動環境の整備、新型コロナウイルス感染症の緊急対策費用など、より優れた就学環境を実現すべく、様々な施策も企画・実施しております。これには年間2300万から4000万円の運営資金が必要となります。

同窓会の皆様には、以上の様な実情をご理解いただくと共に、創立75周年記念事業に向けた「特別寄付」へのご高配を賜り、更なるご支援をお願い申し上げます。

維持会費同窓会支援寄付金 ご協力をお願いします

同窓会経費は、入会金、維持会費、同窓会支援寄付金その他の収入金をもってこれにあてる（同窓会会則22条）。2019年度の収入は約349万円、支出は約319万円でした（2019年度会計報告参照）。収入内訳は、入会金160万円、維持会費約88万円、同窓会活動支援寄付金約56万円、その他約45万円でした。

維持会費は、毎年2000円で、卒業後7年以降経過した社会人を対象にしています。同封の払込取扱票をご利用ください。なお、払込人住所氏名欄の住所・氏名・卒業年次の記入をお忘れなく（毎年払い込みください）。

編集後記

コロナという未知のウイルスがやってきて世界的に大混乱がおこりました。学校も休校が長期におよぶなど先生方も生徒さんも親御さんもみなさん、ストレスがたまられたことと思います。時に人に優しくすることが難しいこともあるでしょうが、そんなときはぜひ茗荷谷駅から母校の門までお散歩でもなさってみてください。

時が流れてもそこに昔の貴方がいます。
（文責 田上睦深）

同窓会ホームページを「活用」ください。
<http://www.takahaya-hs-dousoukaikai.net/>